

関西わーかーずねっと

関西ワーカーズ・コレクティブ連合会ニュース

vol. 18

発行 / 関西ワーカーズ・コレクティブ連合会

・FAX : 072-341-0022

・メール : kansaiwco@gmail.com

発行日 / 2019年2月4日

編集・制作 / W.Co パックプランニング

1月13日(日)、冬晴れのもと配達、編集、コーヒー焙煎、配食、電話受付、福祉の9ワーカーズから26人が「よりあい金剛」(富田林市)のデイルームに集合しました。

10時半から約1時間、ヨガ講師の蔵元さん(W.Coあすか)メンバー)のていねいでやさしい指導のもとヨガを体験して、身も心もほぐれてほかほか。

お腹が空いたところで、生活クラブ消費材の試食会をしました。ホットプレートで焼いた豚肉や野菜にいろいろなたれやドレッシングをかけたり、鶏手羽元のさっぱり煮、『さめナゲット』(モウカサメ使用)などのほか、パスタ2種、雑穀ごはん、漬物でお腹も満足に。食後は、ミニたい焼きを食べな



生活クラブ消費材を試食

コーヒーを入れる
まめ福の白江さん



関西W・Co連合会の 交流会を開催しました



ヨガ体験をする参加者

から、「まめ福」のコーヒーと市販のコーヒーの飲み比べもしました。

各テーブルでは、おいしい食事とともに会話も弾みました。新人ワーカーさんは「ワーカーズの人って、たくさんいるんですね!」と驚き、ベテランワーカーさんは他ワーカーズとの情報交換をしたり相談話などが和やかに飛び交っていました。

「参加して良かった」と、身も心も満足の交流会でした。
W.Coはんど 村尾 恵美子

ワーカーズ研修会

何で、ワーカーズ・コレクティブなの?

～私たちの働き方とその未来を考える～

「何でW.Coなの?」と考えた人はいませんか? W.Coの働き方、ミッション、魅力などのお話を聞いて参加メンバーで日々思っていることを、皆でおしゃべりしませんか?

日時 2月24日(日) 10:00~12:00

会場 エスコープ大阪本部・大会議室

参加費 無料 (W.Co連合会会員外:500円)

講師 藤井 恵理さん(WNJ代表)

申込 W.Coあすか:山田まで FAX.0721-60-2217
締切/2月18日(月)

イベント
案内

ワーカーズ共済情報!

関西W.Co連合会は、W.Co共済の理念に賛同し加入促進に関する活動を進めています

暖冬といわれる今冬ですが、インフルエンザが猛威をふるっています。例年1月から患者数が増え、2月がピークとなっています。予防接種は有効な手段ですが、手洗い・うがいをこまめにおこない、バランスの良い食事を摂って免疫力を高めましょう! マスクの着用も有効な手段です。まだまだ寒さが厳しくなってきます。くれぐれも健康に留意してワークに励んでください。

病気休業保障 風邪などの軽い病気でも申請可能。必ず病院に行ってください。
W.Coかぐや姫 泰中

*関西W.Co連合会のワーカーズ共済加入は8ワーカーズ、58名です。
(2018年12月現在)

ワーカーズ・コレクティブとは、地域に暮らす人たちが、生活者の視点から地域に必要な「もの」や「サービス」を事業化し、自分たちで出資し、経営し、労働をも担う働き方をいいます。

～じんわり、じっくり、じわじわ「地域の底から、社会をつくる」～

第1作「Workers」同様、何の脚色も盛り上がりもなく、淡々とした語り、場面の連なりで流れていく90分。東北の震災で何もなくなったところから7年間、実際には言葉に表せないような苦しみ悲しみの方が多かったでしょうが、小さな仕事起こしの取り組みを通して、新しいものを作る楽しさ、喜びが、じんわりと染み出してくるような印象の映画でした。

何もなくなった町からどんどん人は出て行き、出て行く力のない者が残された。人は減ったが、困った人は減っていない。「こうなったらいいのにねえ」「こんなものがあつたらいいのにねえ」、そういう淡い希望を形にすることって、なかなか勇気のいること。一足飛びではいけないことが想像されるから、皆二の足を踏む。その背中を押したのが、「協同労働」という働き方だった。

映画の冒頭に出てくる、岩手県大槌町の地域共生ホーム「ねまれや」は、2012年6月から仕事おこしに取り組み、2016年3月に施設を開所している。まず、箱モノを作ってからというやり方でないのが、ワーカーズらしいじっくり型だと共感を覚えた。普通の地域の人たちが小さな取り組みを積み重ねて、やがては形にする。このやり方が、被災地の復興という大きな課題にあつて、実直に成果を上げていると私は受け止めた。

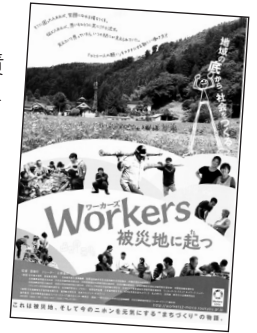
印象に残ったのは、地域共生ホーム「ねまれや」内の高齢者デイサービス「お茶っこ」で働く青山さん。青山さんは、「私は小・中・高校ですつといじめにあつていた。ひとりの寂しさ、苦しさが身に染みてわかるから、お年寄りをひとりにしちゃいけないと思う」と言う。でも、いじめにあつていたころの話をする時涙があふれてくる、まだ心の傷は癒えていない。高齢者との関わりは大丈夫だが、同世代、子どもとのコミュニケーションが苦手で、どうしても苦しくなる。職場にも急に来なくなり、またしばらくしたら出てく

る。こんな彼女を職場の仲間は、誰も責めない。青山さんのお年寄りの関わり方はすばらしいからと、かけがえのない存在として受け入れている。

そしてもうひとり、障がい者就労支援事業所、産直加工品販売、食堂「ともに はま道」の所長・池田さん。池田さんは、震災当時は飛行機の整備士として仙台空港に勤務していた。空港の屋上で、津波に飲まれて亡くなった方々の無数の遺体を目にしなが、助けたいと思つても助けられない状況で一夜を過ごされた。その時に、自分の人生観が180度変わったと言う。「自分は生かされている」。職を失い、職探しをするが、面接にすらたどりつかない。そんな中で出会つたのが「協同労働」という働き方だった。これだと思つて始めるものの、数々の困難が待ち受ける。所長になってすぐ、2600万円もの借金を引き受けることになる。一般の会社だったら4人辞めさせなければならないところを、そうはせず、池田さんが取り組んだのが、「協同経営」の徹底だった。5年をかけて勉強会を開き、一人ひとりに原価率、経費など数字の理解を深めていった。

この二人のエピソードだけでも、ドラマ仕立てにすれば、感動物にできるでしょうが、そうではなく、ただ淡々と語られ、場面がつながれていく。あくまでもじわじわと思ひ出し、自分と重ね合わせ、じわじわと影響を受けていく、そんな映画でした。できれば、ワーカーズで働く人、そうでない人、いろいろな方に見ていただき、素直な感想を聞いてみたいと思ひました。3月2～15日にシアターセブンで上映予定。自主上映会もできます。

NPO法人福祉ワーカーズほーぷ 中島 紀子



2019年がスタートしました。4月30日で平成も終わりです。最近よく耳にする、平成最後の年。新元号は何になるのかな？少しワクワク感もあります。

私は新年早々、車のカギを落としたりと災難に見舞われました。でも、へこんでなんかいられません。学びに変えます。前向きに進みます。健康一番で。今年も感謝を忘れず、笑顔いっぱい的一年にしていこうと思う今日この頃です。

W.Coかぐや姫 泰中 智美

昨年10月に「2019年より生協のコンピューターシステムを変更するためパソコン操作が変わります」と言われ、従来の業務をしながら少しずつ練習をしていました。メンバー内での教え合いやミーティングを利用して情報交換をしながら1月を迎えました。新システムでのパソコン入力が始まりましたが、日々、新しい発見があり、メンバーで共有しながら、早く慣れるようにがんばっています。職員や配達ワーカーなども、新システムには戸惑いながらも皆で教え合いをして対応しています。新しいことを覚えることは大変ですが、良い刺激になります。柔軟に対応できるようにがんばりたいと思います。

W.Coふろんと 山田 恵子

近ごろの W.Co ふろんと

2016年4月設立。エスコープ大阪本部の電話受付業務を受託。
月～金=8:30～19:00
土=8:30～12:00
メンバー数 6名
堺市南区小代727
エスコープ大阪泉北支所内
TEL.072-293-4660

1月より
新システムになり、
日々奮闘中!!